



2013 いわて生協 支援活動報告

あの大震災を忘れず、伝えていこう! できることを続け、つながっていこう!

2013年5月、大船渡市での「移動店舗」。



いわて生協組合員の募金と全国の生協・団体の支援で実現した移動店舗「にこちゃん号」。2013年5月には、4台目がけせん地域で運行を開始。「買い物に不便なのでとても助かっている」の声も多く、2年間のべ13万5千人が利用。

2013年12月、陸前高田市での「クリスマス料理のお振る舞い」。



「年末年始にひとりぼっちにたくない」「温かいものを食べて、元気に過ごしてもらいたい」と、お振る舞いを実施。3年間で、陸前高田市・大船渡市・大槌町の仮設住宅64か所で8千食を提供。「みんなで食べるとおいしいね」と笑顔が広がります。

2013年11月、大船渡市での「ふれあいサロン」。



2011年6月に陸前高田市の避難所からスタートした「ふれあいサロン」。初開催のときは、参加者もボランティアも涙でいっぱいでしたが、続けるうちに笑顔や冗談も飛び交うように。現在も毎月54回の開催を継続しています。

2013年10月、一関市での「復興支援地産地消フェスタ」。



2011年度から、滝沢・奥州・一関市の大型3店舗で開催している「復興支援・地産地消フェスタ」。また、宮古市のマリコブドラでも「復興応援まつり」として開催。2013年度は、沿岸被災地から105店・団体に来店いただき、商品の販売支援につなげています。

2011年3月20日に撮影。



陸前高田市では、街がまるごと津波にのみこまれました。

同じ場所から、2014年2月28日に撮影。



街の再建にむけて工事がすすめられていますが、まだまだ更地が目立ちます。

岩手県の被害

- ①死者…………… 4,672人
- ②行方不明者…………… 1,132人
- ③震災関連死…………… 441人
- ④家屋倒壊…………… 2万5,706棟
- ⑤仮設入居者数…………… 3万3,947人
- ⑥沿岸の人口…………… 25万2,208人
(震災前より2万729人減少)

※①②③④は2014年3月31日現在の岩手県発表より。
⑤は2014年4月10日現在の復興庁発表より。
⑥は2014年1月1日現在の岩手県発表より。

2011年3月17日に撮影。



津波の被害に遭った共同購入釜石センター。

同じセンターを、2014年1月21日に撮影。



市内のがれきは消えつつありますが、センターの隣のがれき置き場には依然として山積みになっています。

被災地に寄り添った支援を、これからも協同の力で

いわて生活協同組合 理事長 飯塚明彦

未曾有の大災害となった東日本大震災から早3年が経過しました。あらためて震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

この3年間、いわて生協では、被災地・被災者に寄りそったさまざまな支援活動を継続してまいりました。移動店舗や買い物バスなどによる買い物支援はのべ16万人が利用し、被災した生産者・メーカーの商品や手作り品の供給支援は7億1千万円となり、被災地のくらしや生業の再建に貢献することができました。また、ふれあいサロンなど被災地での支援活動にはのべ7万3千人が参加し、この活動を支えるボランティアや内陸での活動にはのべ1万8千人が参加しました。こうした支援活動を継続できたのは、多くの組合員のみなさんの協力と、全国の生協や団体のみなさまからの変わらぬご支援があったからこそであり、「協同することの力の大きさ、すばらしさ」を実感し続けた3年間でした。

被災地では、復興の槌音が響いてはきていますが、多くはいまだに更地のままであり、3万4千人が仮設住宅で不便な暮らしを続けています。特に、住まいの再建がすすまず、先行きへの不安が広がり、人口流出の要因にもなっています。また、全国からの支援の減少や震災の風化への不安も広がっています。

こうした中で、いわて生協では、これからも「被災地の生協」として息の長い支援活動をすすめてまいります。「がんばろう！岩手築こう未来」を掲げ、だれもが安心して暮らせる日が一日も早く訪れるよう、22万人組合員のみなさんといっしょに取り組んでまいります。

沿岸で最も被害の大きかった陸前高田市。復興にむけてのメッセージをいただきました。

生協や全国のみなさまとの「絆」を大切に



陸前高田市市長
戸羽 太さん

東日本大震災の発生から3年の歳月が流れました。

これまで、全国各地のたくさんの方々から温かい励ましやご支援を継続していただいていることに、心より感謝申し上げます。

本市の復興状況につきましては、「震災復興計画」に基づきながら、各種復興事業がスタートしており、ようやく復興が目に見える形になってきたところでございます。

いわて生活協同組合のみなさまには、市内において移動店舗「にこちゃん号」の運行や炊き出し、ボランティアなど幅広い活動を実施いただきまして、あらためて感謝申し上げます。

仮設住宅での厳しい生活に耐え、一日も早い復興を願う市民の思いをしっかりと受け止めながら、これまで以上に復興を進めていかなければならないと強く感じているところでございます。被災者の生活再建や市街地・被災地域の復興はもとより、地域産業の再生と発展をめざし、「だれもが住んでみたいと思う、心豊かに安心して暮らし、安定した生活ができるまちづくり」をいわて生活協同組合のみなさまをはじめ、これまでの全国のみなさまとの「絆」を大切にしながら全力で取り組んでまいりますので、末永いご支援を賜りますようお願い申し上げます。



バスボランティア100回目を迎えた2013年7月13日は、陸前高田市で記念の植樹。いわて生協からの60人のほか、大阪・奈良・石川の4生協から40人のボランティアが参加しました。戸羽市長にも植樹をしていただきました。

「自分にできる支援を」との思いを、ボランティア活動に

ふれあいサロン

「少しでも“ほっ”とする時間を持ってほしい」と、2011年6月、陸前高田市の避難所からスタート。現在は、被災地の6市町村と内陸2市で64仮設・地域を対象に、毎月54回開催。2013年9月からは、関東甲信越地域の18医療生協からのボランティア参加もあり、健康チェックや軽体操の指導が大変喜ばれています。



宮古市宮町あゆみ公園仮設団地でのふれあいサロン。「懐メロかるた」でみんな笑顔に。

	開催	参加人数	ボランティア人数
2011年6月～2014年3月	1,203回	12,132人	5,713人

コープ・ボランティアセンターの活動

「被災地に行ってボランティアをしたいけど個人ではなかなか行けない…」という声にこたえて、2011年6月にコープ・ボランティアセンター（CVC）を開設。2013年度も、バスボランティアでは大槌町や陸前高田市で遺品探しや「菜の花プロジェクト」への支援を実施。また、内陸でも、お振る舞い料理の食材切りなどを行っています。



正月料理のお振る舞いでは、かに鍋や餅のほか、大阪・奈良の3生協のみなさんによる「たこやき」も振る舞われ大変喜ばれました。

	開催	参加人数
2011年～2013年	145回	5,658人



被災地に「カードを贈る取り組み」。14年2月、組合員が作った「ひなまつりカード」に沿岸福祉作業所のお菓子、メッセージを添える作業を、ボランティアが行いました。



カードを贈る取り組みは年3回実施。この3年間でのべ3万人へプレゼント。

いわて生協の支援活動の取り組み
多くのみなさんの協力に感謝します

忘れない
伝える
続ける
つながる

大津波で甚大な被害をうけた産直真崎わかめ生産者。今も困難は続いています。

生協の支援に感謝！ 一方、風評被害は深刻



田老町漁業協同組合
代表理事組合長
小林昭榮さん

震災の年は、3月12日からわかめ
の収穫を始める予定でした。その前
日に地震が起き、大津波で何もかも
流されてしまい、その状況が受け入
れられませんでした。しかし、4月
に入り、いわて生協が、お見舞いや
物資支援で何度も足を運んでくださ
り、「生産しなければ町も漁業もダ
メになる。なんとしても復活する
ぞ！」と前向きに考えられるようにな
りました。

いわて生協のみなさんには、その
後も、たくさんの励ましと作業に欠
かせない軍手やトラックまでも支援
していただき、ここまでがんばって
くることができました。本当にあり
がとうございました。

しかし今もお、放射能の風評被
害で利用が完全には回復していま
せん。県内では組合員のみなさんのお

すすめで変わらずに利用いただいで
いますし、いわて生協から全国へア
ピールしてもらったおかげで新たに
取り扱ってくれる生協も増えました。
しかし、関西方面での利用は激減し
たまま、過剰在庫の影響で、年々
生産者からの買い取り価格が下落し
ています。一方で、船に使う燃油は
上昇し、生産者の収入が減っていま
す。また、津波で壊れた防波堤は撤
去したまま。船が接岸できないため
危険かつ困難な状況での陸揚げを今
年も余儀なくされました。暮らしも
不安定な状況です。漁協組合員の約
45%、養殖している人の約30%が、
いまだに港から10kmほど離れた仮
設住宅で暮らしています。震災前94
あった漁家は、震災後68まで減りま
した。

問題は山積みですが、昨年、新た
に10代の若者3人が漁家に加わりま
した。彼らを組合員一同で大切に育
て、協同の力で困難を乗り越え、発
展していきたいと思っています。い
わて生協のみなさまには、今後とも
変わらぬご支援をよろしくお願い
いたします。

被災メーカー・生産者を支援

2012・2013年度で6.8億円を供給

いわて生協では、震災直後から、23のアイコープ商品
メーカー・産直生産者へお見舞いを行ったほか、事業再開
時の備品支援や、製造再開商品・新開発商品の供給促進な
ど、復興を応援する取り組みを、事業でも組合員活動でも
すすめてきました。



「沿岸をはじめ、岩手のものをみんな
で利用して復興支援を」と、滝沢・奥
州・一関市で「復興支援・地産地消フ
ェスタ」を、宮古市では「復興応援ま
つり」を開催。沿岸被災地をはじめ、
多くの団体に来店いただきました。

被災メーカーに製造委託して アイコープ商品を 3年間で5品目開発

この2品は古須賀商店(宮古市)に製造委託。



手作りの販売支援

仮設住宅のグループや団体の手
作り品などの販売にも力を入れ、
3年間で10万2千点、2,700
万円を支援。



マグネットはっと
大槌町「おぢっこながま堤ヶ丘」

毎日の買い物や暮らしを支援

移動店舗「にこちゃん号」

いわて生協組合員の募金と全国の生協・団体の支援で、
12年に3台、13年に1台の計4台を運行。現在、宮古・
釜石・けせん地域の仮設団地58か所4千戸を1日おきに訪
問しています。2年間でのべ13万5千人が利用されました。

お花も食べ物も移動店
舗で買っています。と
も助かっていますよ。
川原フユさん



この仮設に知り合いがいま
せんでしたが、こうやって
買い物に出るとお話も
できていいですね。
小川カヨ子さん

大槌町吉里吉里
仮設団地に

無料お買い物バス

買い物支援の一つとして、2012年
7月から「無料お買い物バス」を日
本生協連からの支援金で運行。お買
い物が不便な宮古市と山田町の仮設
住宅と宮古市の生協店舗を結んでい
ます。この1年半でのべ1万2千人
にご利用いただいています。



1日当たりの利用は約
30人。「無料はありがたい」と喜ばれています。

2014年2月に内陸12会場で開催した「被災地の現状を聴く会」。飯塚さんには6会場でお話しいただきました。

「くらし」と「心」に表れ始めた さまざまな問題



いわて生協・被災地支援担当
飯塚郁子さん
(大船渡市)

震災から4年目を迎え、「ふれあいサロン」などの支援活動を通して、これからも「寄り添うこと」の大切さを実感しています。

被災地では、復興が進まない中、自力で家を再建し、仮設住宅を出て行く人が目立ってきました。「食費を切り詰めて栄養失調になった」人がいるほど必死に働いています。新居に入っても、知り合いもなく孤独を感じている高齢者が多くいます。

一方、仮設住宅に残らざるを得ない一人暮らしの高齢者などは、出て行く人を見送るばかり。互いを思いやり、楽しいコミュニティーを作ってきたはずなのに、次々と別れが訪れます。仲良くしていた一家が出て行くことを直前に知り、激しく泣き、その後落ち込んでしまったおばあ

ちゃんもいます。高齢者の「孤独」が深まっていると感じます。

また、子育て世代の母親の深刻な状況も浮き彫りになってきています。自宅を再建するためにたくさん働きたいのに、仮設団地の多くは交通事情の悪いところにあり、子どもを学校や遊び場などへ送迎しなくてはならず、ジレンマを抱えています。もちろん体を休める時間ありません。

そして忘れていけないのは、「家が残って申し訳ない」「誰かに会ったらどう話していいかわからず出かけられなかった」と、目には見えない被害をうけた住民の方々です。「誰かに会いたい・話したい」とふれあいたいサロンに出てきてくれるようになったのは、震災2年目の夏以降でした。全国の企業などからの支援が激減している中で、多面的に支援を継続してきた生協に期待する声は高まっています。もはやサロンは、楽しむ目的ではなく、「生きる目的」となっています。だから、最後の一人になるまで続ける意義があると思うのです。

※飯塚さんは、元理事で現監事。被災地のニーズを支援活動に反映させているほか、全国の生協へ出向け支援を呼びかけています。

地域に元気と笑顔を広げるために

復興応援文化企画

「芸術・文化にふれてリフレッシュしてもらおう」と毎年開催。けせんコープでは、2011年度「南こうせつコンサート」、2012年度「二胡などの弦楽とピアノのコンサート」そして2013年度は、これまでに仮設住宅での慰問ライブを200回以上行い「心の栄養」を届けている大阪府在住の歌手、奥野ひかるさんによるライブを昼夜2回開催。220人が来場しました。



2月28日、大船渡市リアスホールで。民謡で培った抜群の歌唱力と、爆笑トークで会場を大いに盛り上げました。



「最高！」のひと言。妻が住田でやったライブを観たことがあり、「すごくおもしろいから行こう」と誘われてきました。歌もお上手だったし、話もおもしろくて本当に楽しかったです。
吉田誠悦さん

「3行レシピ集」で食への支援

「料理をする意欲がわなくて…」という声に、簡単にできる「3行レシピ」を内陸のこ〜ぶ委員会から募集し作成。これまでに第2集まで発行し、5,500部を配布しました。



「ふれあいサロン」の食食会で活用したり、陸前高田市の保健師さんからもほしいと希望されるなど、配布と活用が広がっています。

リフレッシュツアー

久慈・宮古・釜石・けせん地域のこ〜ぶ委員会が企画し、内陸への観光や温泉バスツアーなどでリフレッシュしてもらいました。

	開催数	参加人数
2012～2013年度	64回	1,945人

♥ **さまざまな活動を通して生きがいに**

グループ活動補助

被災地や内陸に避難された方が5人以上集まって、サークル活動をしたり、お茶飲みなどをする場合の費用を補助。みんなで集まっておしゃべりしたり、何か活動することが、気晴らしや生きがいに繋がればと、「復興支援基金」を活用して支援しています。

	グループ数	補助金額
2011～2013年度	34	484回の活動に 459万円

「後楽女の会」より

針1本も不足している状態から、回を重ねてご支援いただき、用具や必要な布などを少しずつ揃えることができました。物作りの楽しさを通じて会員どうしのコミュニケーションや絆も深まり、楽しく活動できるようになりました。



手芸好きが集まったグループです。材料を準備するのに、補助金はとても助かりました。



年数回のおしゃべり会は好評で出席率が高く、会の運営への要望などがたくさん寄せられます。

♥ **震災を風化させないための取り組み**

震災を忘れない日

2013年9月から、毎月11日を「震災を忘れない日～がんばろう！岩手 築こう未来」として、店舗では募金の呼びかけや、復興商品・復活メーカー商品のおすすめ強化に取り組んでいます。「震災への関心が薄れつつある今こそ、震災を忘れず、地元の私たちが支援を継続していこう」との思いが、募金や商品利用の増加につながっています。



震災から3年目の同時刻、全店で黙祷を実施。また、たくさんの方から募金が寄せられました。



常設の募金箱はレジ横、サッカー台にあり、みなさんご協力ください。



被災地の現状を聴く会

震災から3年を迎え、これからも被災地を支援・応援していくことの大切さを再確認するために、内陸12会場で開催し、720人が参加しました。

5ページの飯塚郁子さんや、宮古コープ理事の香木みき子さん（写真）、「陸前高田被災地語り部」の釘子明さんにお話しいただきました。



参加者の感想

- 一つひとつのことは小さな支援ですが、それを続けて大きな支援となっているのだと思いました。
- 今日知ったことを「誰かに伝えなくては！」と思いました。今の自分にできることは、募金と商品を買って続ける事。そして、商品の良さを人に伝え、利用してもらおうことだと思いました。
- 話すこと、聴くこと、笑うこと、みんなで食べることの大切さを改めて感じました。早くみなさんが幸せに暮らせる日が来ることを願います。

♥ **さまざまな支援活動は組合員の募金で** ● **たくさんの募金、ありがとうございます！**

3年間で寄せられた「東日本大震災支援募金」

7,554万円

（2014年3月20日現在。日本生協連や全国の生協からの支援金を含む）

2011年5月に、2,000万円を岩手県へ義援金として贈呈。残りを「復興支援基金」として支援活動に活用しています。

※2013年度は、1,160万3,768円の募金が寄せられ、2,046万2,092円を支援活動で活用しました。

● **3年間の「復興支援基金」活用状況（3月20日現在）** ●

被災地でのふれあいサロン	2,274万	56円
バスボランティア・炊き出し	1,523万	3,002円
被災地でのお楽しみ企画	603万	609円
支援物資・買い物支援	647万	1,269円
被災地生協まつり・復興まつり	523万	6,345円
グループ活動補助	451万	9,980円
生産者・メーカー支援	268万	6,298円
その他（販売支援など）	494万	5,155円
計	6,786万	2,714円

2013年度もたくさんの支援をいただきました

2013年度もたくさんの支援を、全国の生協や団体、お取引先様からいただきました。ありがとうございました。

生協まつり

釜石・けせんコープ「生協まつり」では、おおさかパルコープ「おおさかたご焼き」、けせんコープ「生協まつり」では、生協ひろしまの「広島お好み焼き」振る舞い、宮古コープ「復興応援まつり」には、「日本生協連笑顔とどけ隊」をはじめ、生協共立社、コープぐんまなど11生協から出店支援をいただきました。



復興応援商品販売

田老町漁協の真崎わかめなどの販売に、大阪いずみ市民生協、福井県民生協など4生協にご協力いただきました。また、仮設住宅などの住民グループや福祉作業所など23団体の手作りの品の販売に、おおさかパルコープ、コープおきなわ、コープとやまなど18生協にご協力いただきました。



カードを贈る取り組み

「忘れないよ。いっしょにがんばろう」の思いといっしょに年3回カードを贈る取り組みには、コープあいち、ユーコープ、コープかがわ、コープみらい、新潟県総合生協、おおさかパルコープにご協力いただきました。



ふれあいサロンボランティア

2013年9月から、医療生協連関東甲信越ブロックの18医療生協のボランティア支援がスタート。健康チェックや軽体操の指導などを行っていただき、内容が充実し大変喜ばれています。



ふれあいサロンキット・お菓子

ふれあいサロン用のお菓子を、四国4生協やユーコープ、コープいしかわ、京都生協など10生協から、材料キットをコープあおもり、コープとやまなど4生協から支援いただきました。



バスボランティア

おおさかパルコープ、大阪よどがわ市民生協、ならコープが、年間15回陸前高田市へのバスボランティアを継続。年末お振る舞いなどにもご協力いただきました。コープいしかわにも、陸前高田広田地域へのボランティアを継続いただきました。



地域のまつりなどの支援

おおさかパルコープ、コープあいちでは、2013年度も陸前高田市での「うごく七夕」や「花火大会」など地域のまつりや地域の団体への支援を継続いただきました。「日本生協連笑顔とどけ隊」も、宮古市田老地区での支援を継続いただきました。



本・あったかの贈呈

いばらきコープ、コープやまくちからは手編みのひざかけ、生協ララコープからは趣味の本をいただきました。



募金・助成金

日本生協連をはじめ、コープ中国四国事業連合など20生協・団体からの募金のほか、「赤い羽根・災害ボランティア・NPO活動サポート募金」などからの助成金を含め、1,924万円の支援をいただきました。また、2014年4月には、日本生協連が全国の生協に呼びかけた「コープアクション募金」から2,299万円をいただきました。





復興へ!

いわて生協では、被災地の企業・団体を応援しています
機関誌「HELLO コープ」では、毎号表紙で紹介しています



2013年
4月発行
No.133

「おみなや」のみなさん・山田町

手造り味噌の醸造・販売のほか、復興プロジェクト「かけあしの会」の商品を製造しています。「山田町から人が出ていけないためにも、地元の雇用を守ることが必要。みなさんにご利用いただける商品ががんばってつくりまします！」と代表の升屋聡さん(右から二人目)。



2013年
7月発行
No.134

社会福祉法人若竹会「SELP わかたけ」のみなさん
宮古市

復興プロジェクト「かけあしの会」の地元の食材にこだわったお菓子「希望の天使」シリーズ(シフォンケーキ、マドレーヌなど)やオリジナルスイーツを製造。「私たちが心をこめて、一生懸命作っています。ぜひ、利用してくださいね！」とみなさん。



2013年
9月発行
No.135

一般社団法人 和 RING-PROJECTのみなさん
大槌町・釜石市

被災した家屋の柱を使った木製品などを製作・販売しています。「地元や全国からの支援、そして、仲間たちのおかげで、ここまでやってこれました。これからも、一歩ずつ歩んでいきます！」と代表理事の池谷伸吾さん(後列黒いTシャツの方)。



2013年
11月発行
No.136

(株)五十集屋のみなさん
大船渡市

活かたての卸しのほか、ほたてをたっぷり使い、県産の乳製品を使用した「五十集屋コロッケ」が大好評。「とにかく一度食べてもらえばおいしさわかる。ぜひ、試してください！」と社長の野田修一さん(後列左)。



2014年
1月発行
No.137

株式会社 いちまつ 一商店のみなさん
陸前高田市

「雇用を生み出し地域を活性化させたい。陸前高田の名産品をつくりたい」と、代表取締役の菅原泰葉さん(後列右から2人目)が2011年に起業。「陸前高田手焼きせんべい」と、「陸前高田手焼きせんべいのおかき」を製造・販売しています。



2014年
4月発行
No.138

産直真崎わかめ生産者
田老町漁協青野滝養殖組合のみなさん
宮古市田老

必死で復旧作業と養殖作業にあたり、震災の翌年の2012年春、産直真崎わかめの収穫を再開。「今年は3月に入っても寒くて成育は遅めだったけど、品質は最高!みなさん、どんどん食べてくださいね!」と組合長の山本泰規さん(前列右)。

2014年5月発行
いわて生活協同組合
〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220番地3
☎019-687-1321
<http://www.iwate.coop/>



みんなが笑顔になれる日を信じて「築こう!未来」
いわて生協は、これからも被災地・被災者に寄り添い、協同の力で復興支援に取り組んでまいります。

